

オープンキャンパス参加者調査



2007年8月

神戸大学発達科学部

広報専門委員会

調査の概要

1. 調査の目的

本研究は、2007年8月9日の午前・午後に行われた神戸大学発達科学部のオープンキャンパスにおける参加者の属性とオープンキャンパスに対する量的評価及び質的評価を明らかにすることを目的としている。具体的には、オープンキャンパスの参加者の属性、オープンキャンパスに対する評価、意見や感想、発達科学部に対する興味や関心などを把握し、学科別に比較分析を行う。

2. 調査内容

- 1) 属性：性別，年齢，学年，高校所在地，参加した学科名，
関心がある履修コース名
- 2) オープンキャンパスに対する評価：開催時期，開催回数，満足度，
内容，資料，時間
- 3) 「神戸大学案内」について
- 4) オープンキャンパスに関する意見や感想：自由記述法
- 5) 発達科学部に対する関心：自由記述法

調査項目

要因群	項目	カテゴリー
属性	回答者の属性	1.性別 2.年齢 3.学年 4.高校所在地 5.参加した学科名 6.関心がある履修コース名
オープンキャンパスに対する評価	開催時期	1.良い 2.再考した方が良い (2.の場合, “いつごろ”、“何時ごろ”を自由記述法)
	開催回数	1.良い 2.再考した方が良い (2.の場合, 2-1.1回で十分 2-2.2回日程を空けて 2-3.3回以上)
	満足度	1.満足した 2.普通 3.再考した方が 良い(3.の場合, 自由記述法)
	内容	1.満足した 2.普通 3.再考した方が 良い(良かった点,改善点の自由記述法)
	資料	1.充分 2.普通 3.不足 (3.の場合, 自由記述法)
	時間	1.適当 2.長い 3.短い (2. 3.の場合は, 自由記述法)
	オープンキャンパスに関する意見や感想	自由記述法
「神戸大学案内」の評価	「神戸大学案内」について	1.これで良い 2.改善して欲しい 3. その他(2. 3.の場合, 自由記述法)
発達科学部への関心	発達科学部に 対する興味・関心	自由記述法

3. 調査対象

- 1) 母集団：2007年度神戸大学発達科学部のオープンキャンパス参加者
- 2) 標本数：674人

4. 抽出方法・調査期間

2007年8月9日(火)に行われた神戸大学発達科学部のオープンキャンパスで調査票を配布し, 帰りに数箇所に設置した回収箱に入れてもらう配票回収法により来場者調査を行った。

5. 回収結果

配布数：1,347 票

回収数：674 票，50.0%

6. 分析方法

データの分析は単純集計を用いた。データは，学科別に比較分析を行った。

調査結果の要約 (Executive Summary)

1. 関心がある履修コースは未定が3割を占めているが、人間形成学科の心理発達論(22.3%)と学校教育論(12.8%)が10%を超える高い割合を示した。以下は、子ども発達論(9.1%)、身体行動論(5.9%)、教育科学論(5.8%)の順であった。そのため、参加した学科に関して、人間形成学科が半数以上を占め、次いで、人間行動学科(17.5%)、人間表現学科(16.3%)、人間環境学科(4.9%)となった。
2. 開催時期に関して、すべての学科においても参加者のうち9割以上が、開催時期は適当であると評価している。開催回数に関して、すべての学科においても8割以上の参加者が、現状の開催回数で良いと評価している。
3. 満足度に関して、すべての学科で「満足した」参加者が約7割、「普通」と感じた参加者が約3割を占め、合わせるとほぼ10割に上っており、高い評価を示している。
4. 内容に関して、すべての学科で「良かった」と感じた参加者が約7割、「普通」と感じた参加者が約3割を占め、合わせるとほぼ10割に上っている
5. 資料に関して、人間形成学科と人間行動学科の2つの学科は7割以上の参加者が「充分」と答えたが、人間表現学科と人間環境学科は「充分」と答えた参加者は7割を切っている。
6. 時間に関して、すべての学科において9割以上の参加者が「適当」な時間であったと感じている
7. 大学案内に関して、人間環境学科のみが「これで良い」と答えた参加者が9割を切っている。
8. オープンキャンパスに関する意見や感想を自由記述でたずねると、「先生方の説明が分かりやすかった」や「在校生の説明に満足した」、「コースごとの詳細な説明が聞けて良かった」など、大多数が満足している。
不満の内容は、「会場が狭い」や「駅から会場までの案内が分かりづらい」、「難しい言葉が多かった」といった意見が多かった。特に会場についての意見は、参加人数が多かった人間形成学科で目立った。
要望が多かったのは、「施設見学や模擬授業をしてほしい」、「部活、サークルも含め学生生活についてもっと聞きたい」などであり、人間形成学科と人間行動学科で多く見られた。
9. 発達科学部に対する関心は、人間形成学科では 心理への関心、教育・教員免許への関心、子どもへの関心、人間への関心、その他である。その他で注目されるのは、教員免許以外の資格取得・就職を含めた進路に関

するものであった。

人間行動学科では、スポーツ科学への関心、人間と心理への関心、多分野を学べること、その他である。

人間表現学科では、美術・音楽への関心、幅広く学べること、その他である。その他で着目されるのは、表現を通じての心理・社会との接点に関するものであった。

人間環境学科では、環境・社会問題への関心、幅広く学べること、教員免許への関心、その他である。

1. サンプルの属性

1) 性別

サンプルの性別に関して全体にみると、男性が 21.2% (n=143)、女性が 78.6% (n=530) と女性が圧倒的に多い (図 1)。

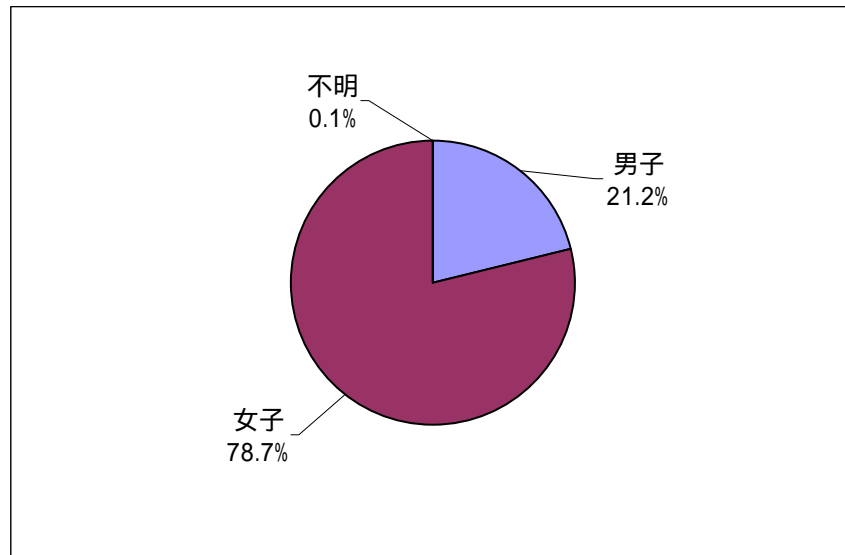


図 1. 参加者の性別 (n=674)

2) 年齢構成

年齢に関して全体的にみると、16 歳が 31.7% (n=213)、17 歳が 38.5% (n=258)、18 歳が 18.6% (n=125) と、参加者はほぼ高校生であることを示している (図 2)。

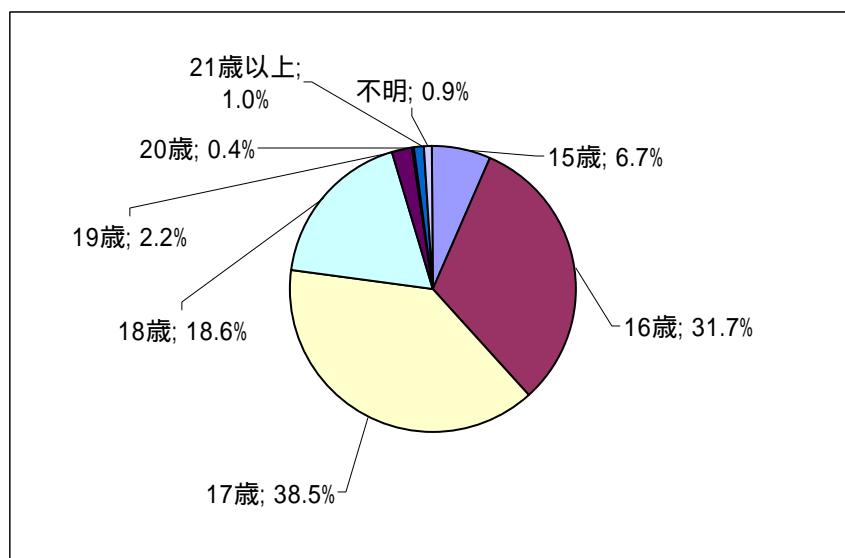


図 2. 年齢構成 (n=674)

3) 学年

学年に関して全体的にみると、高校2年生が44.7%(n=301)、高校3年生が34.3%(n=231)で、大多数であることを示している。また、高校1年生も11.3%(n=76)で約1割を示している(図3)。

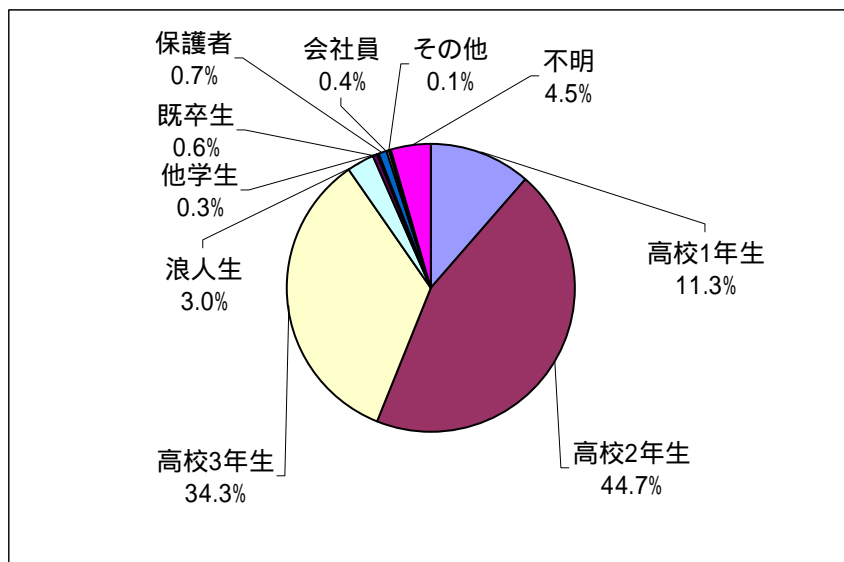


図3. 学年 (n=674)

4) 高校所在地

高校所在地を全体的にみると、神戸市内が 14.4%、兵庫県内が 18.6%、大阪市内が 9.3%、大阪府が 12.3%で兵庫県と大阪府が半数以上を占めている。次いで、高い割合を示してしたのは、奈良県が 5.5%、京都府が 5.2%、広島県が 3.1%である。中国、四国地方といった西日本を中心に東海、関東、九州などの高校からも集っている（表 1）。

表 1. 高校所在地

神戸市内	97 名	14.4%
兵庫県	122 名	18.1%
大阪市内	63 名	9.3%
大阪府	83 名	12.3%
京都府	35 名	5.2%
奈良県	37 名	5.5%
和歌山県	16 名	2.4%
その他近畿	22 名	3.2%
岡山県	18 名	2.7%
広島県	21 名	3.1%
その他中国	7 名	1.0%
徳島県	16 名	2.4%
香川県	14 名	2.1%
その他四国	14 名	2.1%
福井県	17 名	2.5%
富山県	13 名	1.9%
その他北信越	11 名	1.6%
愛知県	10 名	1.4%
その他東海	17 名	2.5%
関東	9 名	1.3%
九州・沖縄	9 名	1.3%
東北	2 名	0.2%
不明	21 名	3.1%
合計	674 名	100.0%

5) 参加した学科

参加した学科を全体的にみると、人間形成学科が 59.1% (n = 398) と半数以上を占め、次いで、人間行動学科が 17.5% (n = 118)、人間表現学科が 15.9% (n = 107)、人間環境学科が 4.9% (n = 33) となった (図 4)。

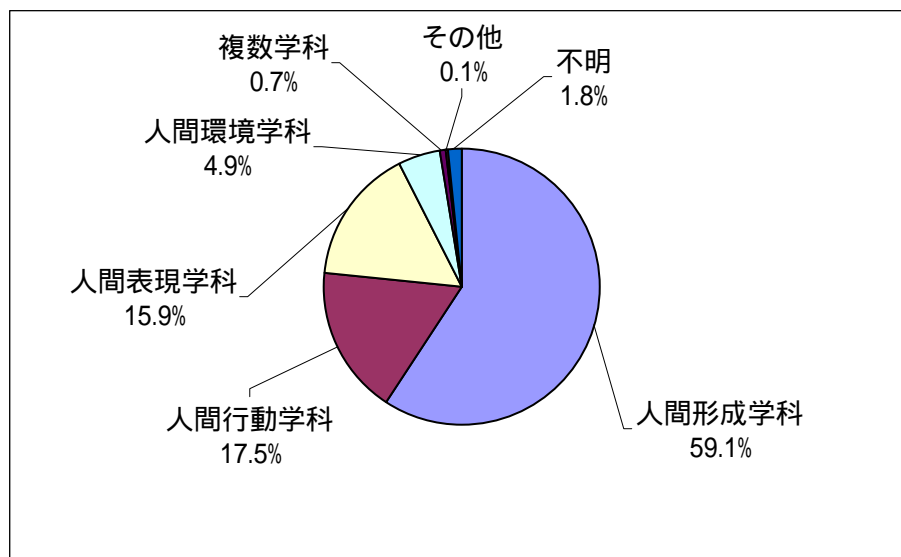


図 4. 参加した学科 (n = 674)

6) 関心がある履修コース

関心がある履修コースを全体的にみると、心理発達論コースが 22.3%と 2 割を超える高い割合を示した。次いで学校教育論コースが 12.8%、子ども発達論コースが 9.1%と 1 割前後の高い割合を示した(表 2)。いずれも、人間形成学科であり、前項の「参加した学科」で、人間形成学科が高い割合を示したことを反映している。

表 2. 関心がある履修コース

心理発達論コース	150 名	22.3%
子ども発達論コース	61 名	9.1%
教育科学論コース	39 名	5.8%
学校教育論コース	86 名	12.8%
健康発達論コース	3 名	0.4%
行動発達論コース	10 名	1.5%
身体行動論コース	40 名	5.9%
表現文化論コース	1 名	0.1%
表現創造論コース	12 名	1.8%
臨床・感性表現論コース	3 名	0.4%
社会環境論コース	1 名	0.1%
生活環境論コース	6 名	0.9%
自然環境論コース	8 名	1.2%
数理情報環境論コース	13 名	1.9%
複数選択	11 名	1.6%
未定	229 名	33.9%
その他	1 名	0.1%
合計	674 名	100.0%

2. オープンキャンパスに対する評価

1) 開催時期

開催時期を学科別にみると、それぞれの学科の95%以上の参加者が、オープンキャンパスの開催時期は適当であると感じていることが示された(図5)。

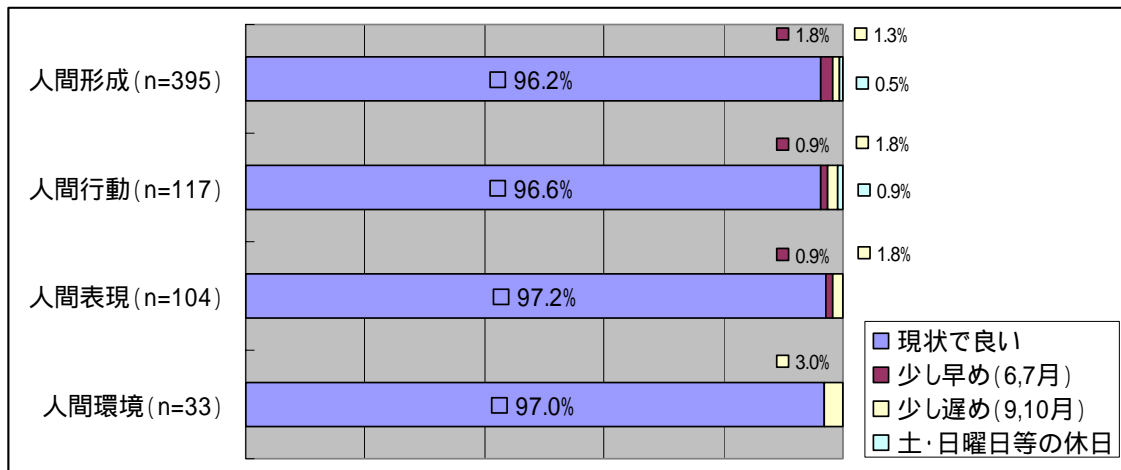


図5. 開催時期 (n = 649)

2) 開催回数

開催回数を学科別にみると、それぞれの学科の80%以上の参加者が、オープンキャンパスの開催回数は「現状で良い」と感じていることが示された。また、人間形成学科で10.3%、人間表現学科で14.2%が開催時期を空けて2回の実施を希望している(図6)。

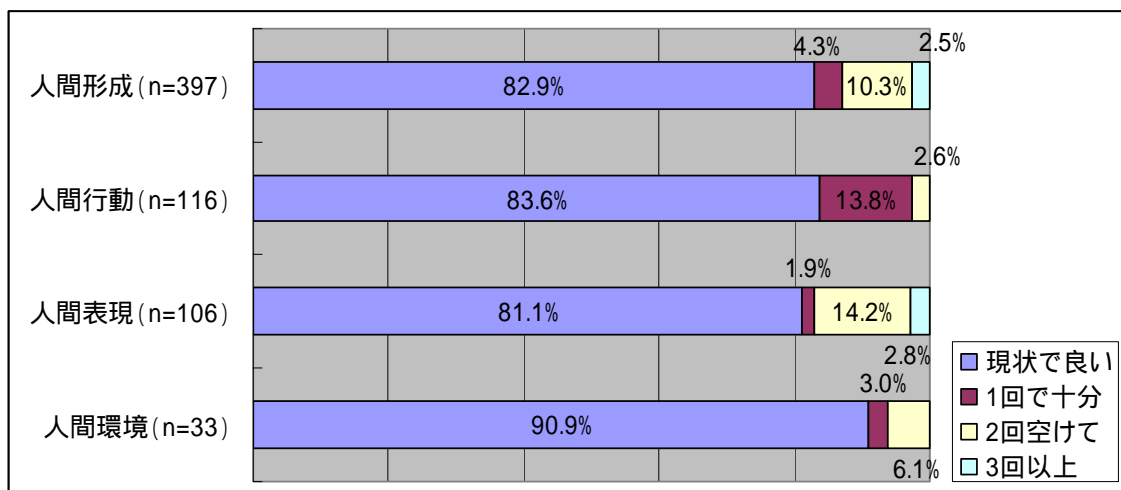


図6. 開催回数 (n = 652)

3) 満足度

満足度を学科別にみても、すべての学科とも「満足した」参加者が約7割、「普通」と感じた参加者が約3割となり、大きな不満を抱くものはいなかったと言える（図7）。

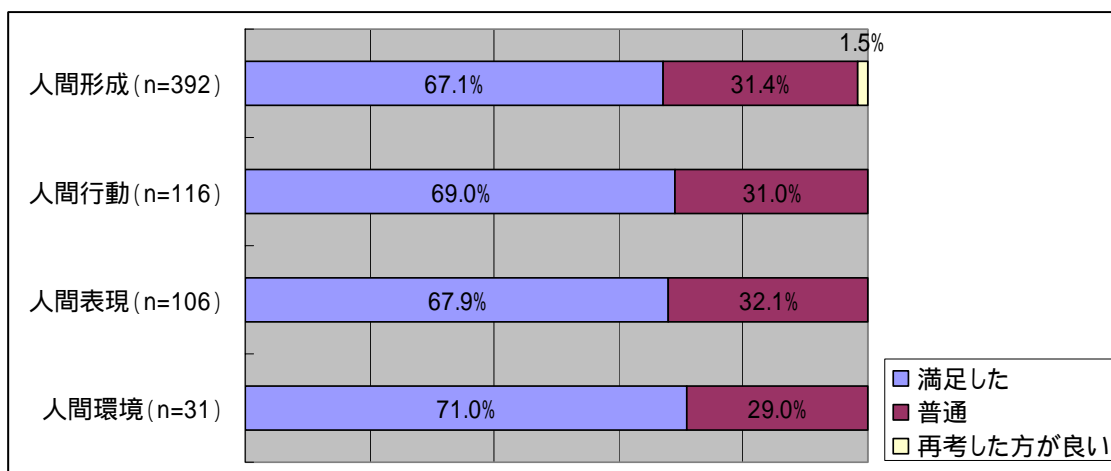


図7. 満足度 (n = 645)

4) 内容

内容を学科ごとにみても、すべての学科とも「良かった」と感じた参加者が約7割、「普通」と感じた参加者が約3割、「改善した方がよい」と感じた参加者がごく少数であった。また、人間環境学科の参加者において若干高い評価を得ている（図9）。

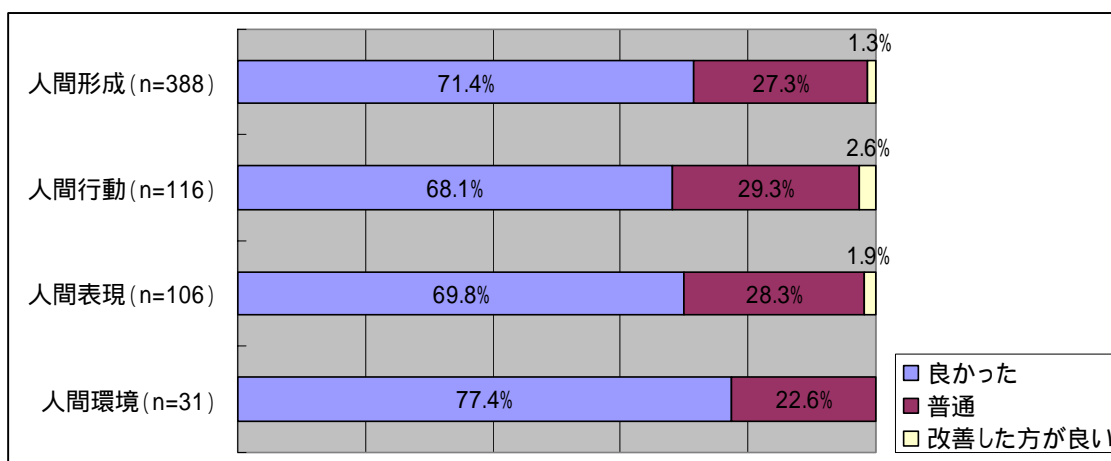


図8. 内容 (n = 641)

5) 資料

資料を学科別にみても、人間形成学科と人間行動学科の2つの学科は7割以上の参加者が「充分」と答えたが、人間表現学科と人間環境学科は「充分」と答えた参加者は7割を切っている(図7)。実験・実技が含まれる人間表現学科と人間環境学科については、より詳細な説明資料を希望している参加者が他の学科より若干多いのではないかと推察される。

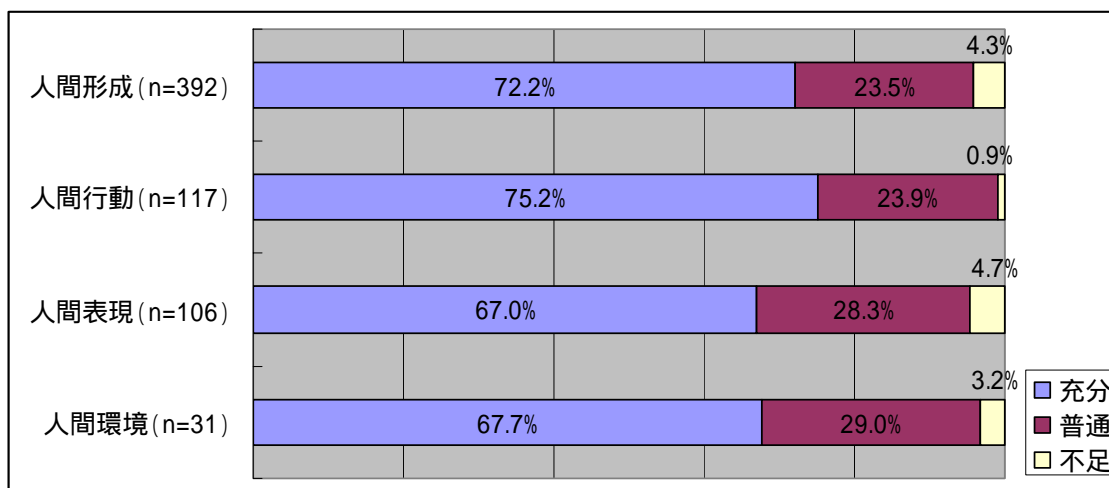


図9. 資料 (n = 646)

6) 時間

時間を学科別にみても、すべての学科において9割以上の参加者が「適当」な時間であったと感じている(図8)。また、人間環境学科については約1割が短いと評価している。

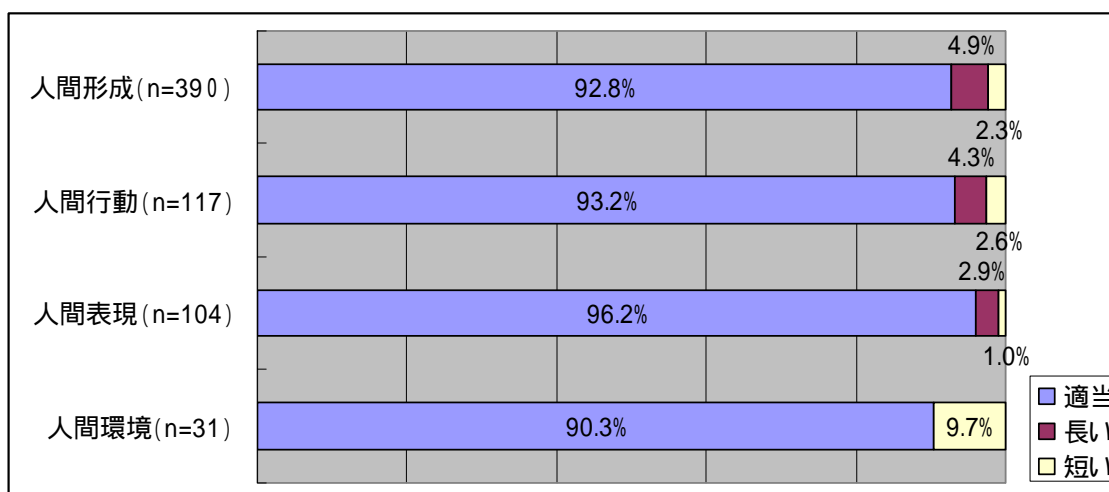


図10. 時間 (n = 642)

7) 大学案内

大学案内を学科ごとにみていくと、人間環境学科のみが「これで良い」と答えた参加者が9割を切っている(図11)。資料の結果と同じく、専門課程等により詳細な説明内容を求めているのではないかと推察される。

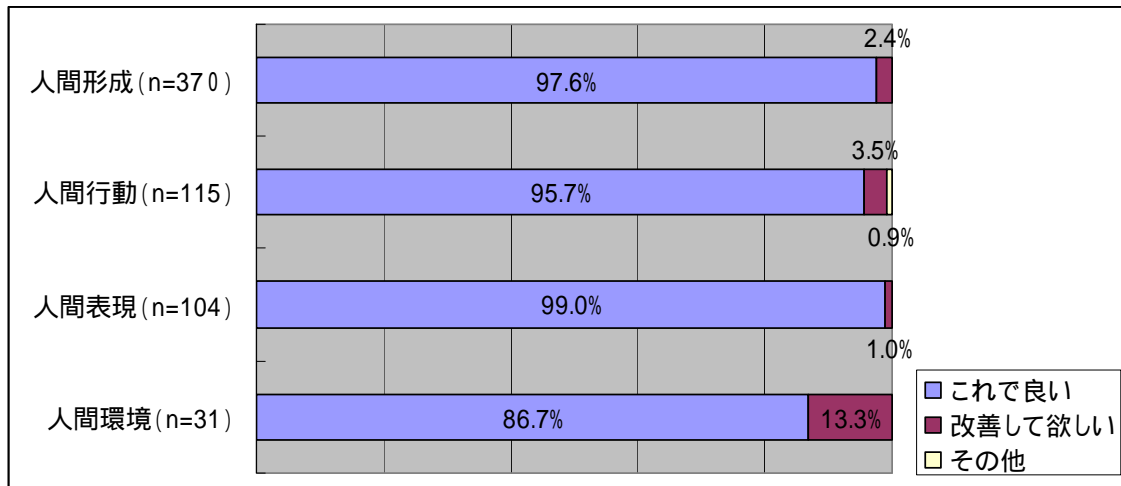


図 11. 大学案内 (n = 620)